

## 都市交流施設整備事業設計業務プロポーザルに関する審査講評

### 1 各提案に対する評価の概要

2次審査応募者の各提案に対する審査委員会における評価の概要は、次のとおりである。

#### (1) 最優秀提案者の評価の概要

##### 提案番号3番

体育館を大空間の温室市場に転換し、既存校舎は極力手を加えずに EXPJ（エクспанション・ジョイント）を介して、ロングリビング（広い縁側）を増築してサービス提供機能を配置。校庭には、駐車場、花の原っぱ、子供のあそび場の機能を持たせた提案である。

南房総の玄関口のランドマークとしての温室広場、周辺環境と調和したランドスケープ、交流客・地域住民・テナントにとって魅力的な空間構成、小さな子供連れが楽しめる工夫、交通や情報の拠点として必要な機能の確保など、すべての要求水準に配慮がなされ、次世代のためにも、廃校となる小学校を都市交流施設として再生し、地域活性化の拠点として生まれ変わらせることを目指している鋸南町にとって、1次審査において選定された6者の中で最も総合力に優れた提案者と評価できる。

主として評価した点は以下である。

・体育館は、既存の鉄骨フレームと既製の農業用資材を活用して大きな温室のような空間を創造し、天井高のある気持ちよい交流や滞在の場を形成している。最寄りのインターチェンジからの視認性の高さを活かした、花卉栽培をシンボルとした空間演出は、南房総の玄関口としてのランドマークとなる可能性を有している。

・校舎は背景の山並みと調和した現状の水平ラインを残して極力改造を加えず、南側にロングリビングを増築することにより、開放感に満ちた屋内の交流空間を創出し、人々の往来を促す工夫がなされている。ロングリビングと、既存の職員室棟撤去後の

トイレ・浴室棟の増築以外は、最小限の改築にとどめるアプローチは、廃校のコンバージョン手法として評価できる。

・校庭は広さを活かし、駐車場と体育館・校舎の間に子供たちが自由に走り回れる“花の原っぱ”を設けるアイデア。周辺環境との調和をもとめる鋸南町の意図と折り合った美しい景観は高く評価できる。

・プレゼンテーションでは、独自提案である早稲田大学・法政大学・日本女子大学・横浜国立大学・工学院大学による持続的な支援と、町側の要望にあわせて設計内容について柔軟に対応することが確約された点が評価できる。

## (2) 次点提案者の評価の概要

### ■提案番号9番

本提案は、施設全体を「桜の森」に見立てた植栽あふれる景観とし、グラウンドをグリッドの敷かれた森の広場として駐車場やイベント広場として目的に応じて可変利用ができるように工夫されている点等は、他にはない提案として評価できる。

また、校舎1階正面の目立つ位置に大規模な産直所を配置して商業施設としての賑わいを演出した点、校舎とグラウンドをつなぐ広大な半屋外空間「おもてなしロード」によって交流やイベントが実施しやすい空間構成とした点は、商業施設としての再生を期待させるものとして評価できる。

しかしながら、本プロポーザルで期待している南房総の玄関口としてのランドマーク性については、桜の植栽とタワーというオーソドックスな提案にとどまっている点、ランドスケープについて桜のみに大きく依存している点などに懸念がもたれた。最優秀提案者に比べ、相対的に提案力が及ばなかったと判断した。

## (3) 3位提案者の評価の概要

### ■提案番号5番

本提案は、漁網をかけて緑を這わせた「グリーンボックス」を校舎の前面に配置し、連なる緑の屋根をつくり、周辺環境とも調和した交流空間を創出する意欲的な提案である。校舎が透けて見えるグリーンボックスの組み合わせによるファサードの美しさ、商業施設として柔軟にテナントや利用者の意向を反映できる点などが評価できる。

一方で、グリーンボックスを構成する鉄骨や漁網の耐久性やメンテナンス性への検証が十分なされているか懸念がある。ランドマーク性やサービス提供施設としての機能の提案力等、全体として上位2者と比べ、相対的に提案力が及ばないと判断した。

#### (4) その他提案者の評価の概要

##### ■提案番号8番

アイデアに満ち、詳細まで検討されているのは評価できる。既存のものに手を加えないことに徹し、テーマを絞った点、また事業費低減にも効果のある興味深い提案である。その一方、利用対象がスポーツ関係者に限定されていることは問題で、本プロポーザルで期待している「さまざまな地域住民へのサービスを提供する施設」としては不十分だという懸念を払拭できない。上位3者に相対的に提案力が及ばなかったと判断した。

##### ■提案番号20番

今回の公募では多くの「大屋根」の提案がなされたが、その中でも「ゾーニングの明確さ、わかりやすさ」「商業的な使いやすさへの配慮」「来場者の動線への工夫」が評価できる。一方で、ランドマーク性の核となるべき大屋根の構造的根拠、ランドスケープとしての魅力などがいささか不十分であり、上位3者に提案力が及ばないと判断した。

##### ■提案番号31番

フラワーボックスと大屋根のリングがシンボル性の高い空間を創り出しており、大屋根が広場と一体化している点が興味深い。半屋内との繋がりもあり、荒天時でも濡れないで施設に出入りができるのは魅力的である。一方、大屋根の構造的根拠や屋根材の検討が不十分と思われ、上位3者に提案力が及ばなかったと判断した。

## 2 選定委員会の総評

まず、大変にタイトな提案期間のなか、本設計プロポーザルに対して全国から37者から提案をいただいたことに深謝申し上げたい。

各応募者のご尽力により、平成26年3月末を以て閉校となる鋸南町立保田小学校の改修・再生に関し、「コミュニティの核であった施設を、都市交流施設として地域経済を支える拠点に生まれ変わらせるために建築面で何ができるのか」貴重な示唆を得ることができた。

特に、自然と調和したランドマーク性やランドスケープのあり方、都市と農山漁村の交流を支える豊かな空間創出への工夫、廃校の商業施設へのコンバージョン手法などの考え方が整理されたことは、今後も数多く発生するであろう類似のコンバージョンのモデルケースとして非常に価値があると考ええる。

最優秀提案者は、鋸南町にとって最適な提案者と評価できる一方、本提案を際立たせている温室市場は、耐久性や清掃・防犯等の維持管理に懸念があるうえ、コストパフォーマンスも踏まえた現実的な温熱環境設計等への課題が指摘された。しかし、現在の材料技術、適切な建築・構造・設備設計によりその課題は、解消されると判断できる。

また、駐車場から施設や各施設間のアプローチのしやすさへの配慮、独自提案である宿泊・浴室・里の図書館機能と既存事業計画の連携、施設運営事業者やテナント要望への柔軟な対応、5大学によるワークショップ手法の本案件に適した見直し等の課題もあるが、今後の設計において、関係者や専門家による十分な協議を通じて、設計・建築段階において適切に克服して反映され、魅力ある設計にまとめられるものと考ええる。

最後に、この都市交流施設整備事業設計業務プロポーザルは、鋸南町と建築専門家が適切な協働を実現できたことにより、比較的小規模な地方自治体における専門的な審査体制および運営のあり方、公開プレゼンテーション等による高い透明性や公正性の確保という点において、鋸南町だけでなく我が国の今後の公共建築の検討プロセスのあり方とし

て参考となる事業であり、選考委員会として、鋸南町と本設計プロポーザルに対する参加者の熱意と努力に対して敬意を表するものである。

以 上

平成26年1月27日

都市交流施設整備事業設計業務プロポーザル審査委員会

委員長

布野修司 